



林業の成長産業化の実現に向けて

池田局長着任挨拶

8月1日付で、池田直弥前林野庁整備課長が九州森林管理局局長へ就任、8月2日、局大会議室において着任挨拶を行いました。

この度、九州森林管理局局長の辞令をいただきました池田直弥です。

これから、皆さんと力を合わせ、国有林の適切な管理運営を進めるとともに、林業の成長産業化の実現に向けて、必要な取り組みを進め、全国に情報発信していきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

はじめに、4月に発生した熊本地震により亡くなられた、多くの方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様に對しまして心からお見舞い申し上げます。

林業技術者の真価が問われる時代

私は、九州での勤務はこれで3回目になります。最初は西部営林署長として、2回目は熊本県の森林整備課長として、そして今回10年振りに九州で仕事をさせていただきます。

九州では、多くの人工林が利用可能となり、間伐から主伐・再造林へ移行しつつありますが、これら人工林を今後どのように

取り扱っていくのか、林業技術者の真価が問われる時代を迎えていると思っています。

これまでも、九州局は全国に先駆けて、コンテナ苗を用いた一貫施業の実施など、様々な取り組みを進めてきましたが、これらの取り組みを継承し発展させていきたいと考えています。

自身の思い5項目

当面、私自身がやらなければならぬと思っていることが5点あります。

1点目は、熊本地震への対応です。今回の地震により多大な被害が発生した、阿蘇地方をはじめとした被災箇所の日も早い復旧・復興を進め、地域住民が安心して住めるようにしなければならぬと思っています。

特に、この災害では、民有林の災害復旧を国有林が代行して行うこととしていますが、局署を挙げて万全の体制で取り組みたいと考えています。

2点目は、国産材の安定供給への貢献です。近年、九州各地

で動き出している大型の製材工場や木質バイオマス施設などへ、国産材を安定的に供給することが重要になっていますが、大山林所有者である国有林はその調整源としての役割を求められており、より一層地域の林業・木材産業関係者との連携を密にしなから的確に対応していかねければならないと思っています。

3点目は、林業の技術革新へのチャレンジです。今後、主伐・再造林が増加していく中で、事業の効率化・コストダウンを図っていくことが、主要な課題となっていますが、国有林がフィールドを活用しながら技術開発に率先して取り組み、地域に情報発信していくことが、国有林の大きな役割だと思っています。

4点目は、生物多様性保全の問題、特にシカ対策です。シカ個体数の急激な増加は、森林の



着任挨拶する池田局長

生物多様性機能や水土保全機能を低下させ、林業の成長産業化の大きな阻害要因となっています。シカ被害対策については、これまで以上に民有林関係者と連携し、森林生態系を守っていくことが重要となっています。

今後、より効果的な対策の実証を進め、シカ被害の軽減に努めていきたいと思っています。

5点目は、人材の育成です。森林行政を司る市町村では、地域全体の森林づくりを担える人材が不十分であり、これまで以上に、林業技術者の支援が必要とされてきます。今後、各県のフォレストと連携をとりながら、九州全体の森林づくりに自信を持って取り組める人材を育てていきたいと思っています。

森林管理局・署が地域から頼りにされる存在となるよう、職員全体の資質の向上に力を入れていきたいと思っています。

健康で明るい職場へ

最後に、具体的な業務においては、「ほうれんそう(報告・連絡・相談)」の徹底と、労働安全の確保、労働災害の防止に徹底的に取り組む、健康で明るい職場を維持していきたいと思っています。

どうぞよろしく申し上げます。

屋久島世界遺産地域科学委員会及びヤクシカ・ワーキンググループ会議を開催

8月4日及び5日に、今年度1回目の屋久島世界遺産地域科学委員会及び科学委員会の作業部会であるヤクシカ・ワーキンググループ会議を、屋久島環境文化村センターにおいて開きました。

科学委員会開催にあたり、事務局を代表して、九州森林管理局山崎準計画課長から「屋久島における課題の解決には、しっかりと科学的根拠が必要。活発な議論をお願いしたい」との挨拶がありました。

続いて、屋久島町矢野和好環境政策課長から「本委員会の協議を通じて、世界遺産の保全や屋久島の付加価値にご尽力いただいていることに感謝し、その



挨拶する山崎計画課長

価値が損なわれることなく、未来へ引き継がれるよう引き続きお力添えを賜り、しっかりと議論の成果を町政に反映させたい」との挨拶がありました。

今回の委員会では、「平成27年度第2回科学委員会における主な議論の整理」を報告した後、①屋久島世界遺産地域管理計画の実施状況、②モニタリング調査、③ヤクシカ・ワーキンググループでの取組状況、④山岳部における利用の検討状況について議論がなされました。

主な議論は、モニタリング調査の実施状況や山岳部利用のあり方についてであり、林野庁が過去実施した植生モニタリング調査及び高層湿原花之江河・小花之江河の湿原モニタリング調査結果の取りまとめ中間報告を受け、委員からは、高層湿原である花之江河・小花之江河における湿原の乾燥化、陸地化の進行は明らかであり、原因を特定するとともに、今後、抜本的に

どう対処するのか、自然のままに放置するのか、或いは、人が手を加え湿原を維持するのか、を考える時期にあり早急の対応が必要であるとの助言がなされました。



各委員が議論する課題

世界遺産地域の適正な利用では、縄文杉周辺の再整備、縄文杉南デッキ解体撤去跡地の植生回復、山岳部利用のあり方について、事務局より説明し各委員からの助言をいただき、その助言を参考に、地域関係者と調整しながら進めることとしています。

ヤクシカ・ワーキンググループでの取り組み状況について、矢原徹一委員長から、前日に開催されたヤクシカ・ワーキンググループと特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議の報告がなされました。

委員からは、今後、被害が目立つ西部地域や山岳部でどう捕獲、管理していくかが大事で、生息密度や生息域を把握し、確実な科学的根拠の下で個体数の適正な管理、捕獲個体の処理問

題、シャープシューティング射手の人材育成などが必要であるとの意見が出されました。

その他として、屋久島町から①し尿搬出用モノレールの設計見直しと今後の方針について説明、②日本の世界自然遺産4地域8町村によって構成する「世界遺産地域ネットワーク協議会」の設立報告、③「屋久島・口永良部島ユネスコエコパークの拡張申請」が第28回ユネスコMAB計画国際調整理事会において登録されたとの報告がありました。

最後に、九州地方環境事務所河原武統括自然保護企画官から「早朝から数時間にわたり、科学的知見に基づき助言いただき、ありがとうございます。屋久島自然遺産地域環境保護対策においては、ヤクシカ・高層湿原の陸地化・登山道管理など、まだまだ課題があると改めて感じています。本日はいただいたご提案やご指摘について、事務局である関係行政機関が連携を取りながら対処していくことが必要と考えているので、引き続きご指導ご鞭撻を賜りたい」との閉会の挨拶で委員会を終了しました。

今後とも当委員会の助言を得ながら屋久島世界遺産地域の貴重な自然環境を適正に保全・管理していくこととしています。
(担当：計画課)

自然観察会を開催

【熊本南部森林管理署】8月3日、水上村内の市房山麓に生息する国指定の天然記念物「ゴイシツバメシジミ」の自然観察会を開きました。

当日は、三枝豊平九州大学名誉教授と杉本美華専門員を講師に迎え、水上村及び多良木町の小学生29人を対象に座学と野外での観察を行いました。

今回は、幸いにもゴイシツバメシジミが路上に降りて来て、三枝教授の手に止まるなどしたことから、実物を良く観察することができ、子供たちにとっても大変貴重な経験となりました。

また、この自然観察会はテレビで放映され、広く一般の方の目にも触れたことから、更なる保護活動の推進と、水上村のPRに繋がることを期待されます。



観察会の様子とゴイシツバメシジミ (左)

熊本地震への対応など抱負を述べる

池田局長就任記者会見

8月1日付で就任した、池田直弥局長の就任記者会見が、8月17日に報道機関各社が出席し開かれました。

会見では、冒頭、池田局長より就任のあいさつに続き、東京農工大学大学院修了後、1985年農林水産省入省、九州では大分西部営林署長、熊本県林務水産部で森林整備課長などを勤め、今回が10年ぶり3回目の九州勤務であることなど、自身の経歴について説明しました。

その後、九州森林管理局において、特に取り組みたい事項、①熊本地震への対応、②計画的な木材生産、安定的な供給、③林業の技術革新、④生物多様性の保全、特にシカ対策、⑤人材育成について説明しました。

最後に、記者との質疑応答が行われ、熊本地震の被害状況を見た感想や、10年ぶりの九州の感想、熊本県庁での業務についてなどの質問があり、局長から一つ一つの質問に丁寧な回答がありました。

その他にも、家族構成や趣味、身のリフレッシュとどう繋がっているかということが科学的に実証されたことも理解するまでになりました。



☆永井 ミツ子さん

私は十年ほど前から森林セラピー基地のガイドをしています。今となつては随分と森の持つ力について知っている方だと感じています。以前はハイキングのような楽しみ方しかないと感じていました。

私自身も、セラピーの勉強をするまではそうでした。今では、人は昔から森と深く関わって生きてきたことも、そのことが心

学生時代にやっていたスポーツなどの質問もあり、和やかな雰囲気の中記者会見を終了しました。

(担当：総務課)



記者会見の様

遊歩道の点検整備を実施

【熊本南部森林管理署】8月5日、あさぎり町の白髪岳国有林において、山の日制定記念行事として、遊歩道の点検整備を実施しました。

この遊歩道整備は例年行っているもので、当署と国民参加の森林づくりにおける「多様な活動の森」として協定を締結している、「白髪岳を守る山の会」と共同で行いました。

当日は、天候にも恵まれ、額に汗しながら片道二時間程かけて、遊歩道周辺のゴミ拾いや看板の整備などを行いました。



看板整備を行う参加者

また、山頂付近に設置している、植生保護柵の補修等も行うことができ、有意義な活動となりました。

最後に、今後の白髪岳の安全と、環境の保全が保たれることを祈念し解散しました。

ん感じる事ができます。

現代病と言われる「心の病」は、職場で一番の問題とされています。そこで、今年から50名以上の従業員がいる会社では、労働安全衛生法に基づくストレ

化をもち、また、免疫細胞も活発にしてくれます。それになんと言っても、森に行くときわやかな風や、やさしい香り、目に映る木々の青葉、小鳥の声など、癒やされる体験をたくさん

今こそ森林を活用しよう

ストレッチ制度が導入されています。私は、そのことに刮目して、年に一度自然の中で過ごす研修を実施するなど、森林セラピーを活用することが今まさに必要なことではないかと感じて

います。

多忙な日々からちょっと一息つくために森の中で静かに過ごす、そんな時間がこれからは必要となることでしょう。

うれしいことに、日本にはそんな森林セラピー基地とセラピーロードが全国に62カ所も設置され(平成28年1月現在)、どなたでも気軽に行くことができます。まずは近くのロードから始められてはどうでしょうか。

そのセラピー基地の多くは、ほとんどが国有林です。昔からずっと受け継がれ大切に保存された、すばらしい森がたくさん

あります。

私が現在住んでいるところも周りは山に囲まれた田舎ですが、森に行くときまた違う魅力に癒やされます。このようにすてきな場所をもっと多くの方に知ってもらいたいと思います。

森の持つ力は、私自身よく分かります。この十数年風邪も引かず、病院にも行ったことがないほどです。やはり森の中の免疫作用がよい影響をもらっているのではと感じています。是非皆様も自分のために、森へ足を運んで下さい。

(宮崎県日南市在住)

「くまモン」国のお仕事〜夏休み見学デー開催

8月3・4日、熊本地方合同庁舎消費者の部屋にて「くまモン」国のお仕事〜夏休み見学デー〜が開かれました。

このイベントは、九州農政局主催で、国や行政機関の仕事や役割などについて、業務の説明や庁内見学など、国関係機関の催しを通じ、参加した親子に国の仕事を幅広く認識してもらうことを目的としたイベントで、2012年より実施され今回で4回目です。

九州森林管理局では、農林水産省の取り組みや、仕事・役割などについて、一般の皆さんへの馴染みが薄いことから、より一層の理解を深めて頂きたく積極的に参加しており、他にも九州地方環境事務所など、国関係



来場者で賑わう局ブース



親子でもつくぐづくり

の10機関が協力依頼を受け参加しています。

今年は、1日目の午後から「くまモン」も来場し、くまモン体操を踊った後、各ブースを回りイベントに協力、九州森林管理局のブースでは、「山の日」のほりやパンフレット、木工教室の桜の小枝ストラップ「もっくん」にとっても興味を示してくれました。

来場者の中には、もっくんづくりに毎年参加してくれる親子もいて、去年作ったもっくんを見せてくれる子ども達や「パンフレットを見て、私はこれが1番作りたくてきました」と、イベントを毎年楽しみにしているお子さんもいて好評でした。

(担当 技術普及課)

ドラゴンボートで大健闘

【屋久島森林管理署】8月7日宮之浦川において、第9回屋久島町ドラゴンボート大会が開かれました。

当日は小学生の部4チーム、中学生の部3チーム、地区対抗の部9チーム、一般の部8チームのエントリーがあり、屋久島森林管理署・屋久島森林生態系保全センターの合同チームは、一般の部にエントリーし大会に臨みました。

第6レースに出場した合同チームは「運」を味方に付け、予選を見事通過、決勝レースへ駒を進めました。

初優勝を目指す決勝レースでは、大勢の観客が見守る中、決勝の合図が鳴り一斉にスタート、



存在感をアピールしたレースの様子

しかしスタートの出遅れがひびき、見る見るうちに離されてしまいい、他チームとの力の差に圧倒され、結果は4位となりました。

優勝は逃しましたが、今回の大会で、屋久島の雄大な海や川を利用した海洋性スポーツ（ドラゴンボート）を通じ、8月11日の「山の日」を前に、屋久島森林管理署・屋久島森林生態系保全センターの存在感を地域にアピールすることが出来ました。

小学生に森林教室

【大隅森林管理署】鹿屋市の社会福祉法人敬心会が、森林学習と体験活動を行っている「くまそ自然塾」の小学1年生から4年生の子供達50人に、鹿屋市下高隈町の門田国有林「たかくまふれあいの森」で森林教室を行いました。

当署から、郷原寛美森林技術指導官が講師として参加、照葉樹林内の遊歩道の散策や紙芝居「森林からの贈り物」をおして、森林と人や動植物との関わりについて話をしました。

子供達は、セミの抜け殻やキノコ、トカゲなどを見つけては大はしゃぎし、セミの一生が短いことや、キノコにも毒キノコ

があること、また樹木にもそれぞれ名前があることなどを学びました。

また、紙芝居を見て自然を大事にすることが人間の生活を豊かにすることを学習して、「森林の大切さが分かった」「また森林に来てみたい」などの感想が聞かれました。

この森林教室は、鹿児島県の森林環境税を活用し、森林環境教育の企画を行っている、新牛込和弘氏（照葉樹の森・稲尾岳ピジターセンター元所長）が初めて国有林のフィールドを利用して取り組みを行ったものです。

今回の企画が成功を収めたことから、新牛込氏は今後も継続して実施したいと意欲を示されており、当署としても「開かれた国有林」実現のために協力していきたいと考えています。



真剣に話を聞く子供たち

6団体へ農林水産大臣感謝状を贈呈 熊本地震への災害援助貢献を評価

平成28年熊本地震に際し、災害援助に貢献いただいた「九州国有林採石協会」「九州国有林業生産協会」「一般社団法人熊本林業土木協会」「新栄合板工業株式会社」「福岡県森林土木建設業協会」「一般社団法人林道安全協会九州支所」に対し農林水産大臣感謝状が贈呈されました。

感謝状を受けられた各林業関係団体におかれては、熊本地震発生に伴い近隣の小中学校などに避難を余儀なくされた方々に対して、地震発生直後から食料、飲料水、生活用品などの支援助物を提供いただきました。

このことは、避難された方々の生活の糧となるとともに、多



【写真は感謝状を授与された各団体の代表者の皆さん】

くの人々に気力と希望を与えたものと思います。
このような心のこもった貢献が評価され、今回の感謝状贈呈となったものです。
(担当II企画調整課)



第20回「森の塾」を開催 熊本地震内の小学校教諭が参加

8月8日、九州森林管理局において、熊本県内の小学校教諭7人が参加し、第20回「森の塾」を開きました。

「森の塾」は、森林に対する関心やニーズが多様化するなか森林の役割や利用、自然環境問題などについて、一般の方々や学校への普及啓発が重要視されています。この取り組みを通じて「開かれた国有林」「国民の森」となるよう熊本県内の小学校教諭を対象に、毎年実施しているものです。

最初に、「森林の整備・保全、林業の成長産業化に向けた取り組み」として、①森林・林業を取り巻く情勢の変遷、②森林・林業の現状と課題、③森林・林業基本計画のビジョン、④林業の成長産業化など、4つに分けて具体的に説明しました。

次に、「低コストに向けた取り組み」「シカ被害の現状と対策について」と題し、シカの生態やシカによる農林業被害などの実態と課題、九州森林管理局の取り組み状況を説明しました。

実習では、散策、樹木鑑定に加えて、木工品づくりを行い、もっくんストラップを作製しました。

参加者からは「色々な樹木の



説明を聞く小学校の先生達

特徴が解りました」「低コストに向けた取り組みについて詳しくご説明頂き、謎が解けたような気がします」などの声が聞かれました。

最後に行ったアンケートには「楽しく学びのある研修でした、学校に持ち帰って環境教育に生かしたいと思います。学校への出張講座（先生・子ども向け）があるといいですね」などの感想が寄せられました。
(担当II技術普及課)

意見交換会で情報共有

【宮崎北部森林管理署】8月2日、宮崎県と国有林の取り組みなどの情報を共有し、地域林業の課題などの解決に向けた意見

交換を目的に、当署と東臼杵農林振興局の意見交換会を開きました。

当日は、当署から森林技術指導官外4人、農林振興局から林務課長、土木課長、各担当リーダーの計13人が参加しました。

当署からは、九州森林管理局及び宮崎県各署の取り組みについて、農林振興局からは管内事業量の情報提供がありました。

その後、事前の質問事項にあった、ブナハバチの食害状況、熊本地震の被害状況などの説明を行った後、管内市町村に対して行うアンケート調査について意見交換を実施しました。

また、その日の夜に行った意見交換の会場には、当署から工藤孝署長外2人、農林振興局からは、農林振興局長と次長にも参加いただき、有意義な意見交換を行いました。



意見交換会の様子

8月11日・監物台樹木園再開園

～熊本地震復興の先駆けとして～

監物台樹木園は、先の「熊本地震」によって、園内建物などの被災、熊本城内立ち入り規制などからこれまで臨時休園としてきました。

九州森林管理局では、再開園可能な準備が整ったことから「熊本地震」後、復興の先駆けにと、今年から導入された「山の日」の8月11日に合わせて再開園しました。

再開園初日は、正門前で職員による「山の日」制定記念のチラシ配布と、11日から31日まで入園無料を入園者呼びかけ、多くの入園者に来園していただきました。

また、新聞やテレビの取材も複数あり、「山の日」と監物台樹木園再開園への関心の高さが伺えました。猛暑の中、訪れた入園者から



テレビ局の取材の様子

「この暑い中よく手入れしてありますね、大変だったでしょう」と、ねぎらいの声もいただきました。

地震の被害から園内施設を復旧し、「山の日」に再開園できたことは、「熊本地震」後の熊本城周辺の復旧・復興に大きく貢献する意味のある再開園となりました。

※監物台樹木園は熊本城内の一角に位置しており、2・6・4分の敷地に常緑広葉樹を中心に約



タラノキは山菜の王様としてよく知られています。近年、芽が生長しないうちに、芽をかいて持ち帰り、自宅で発芽させて利用することから、自然に芽が出ているタラノキを見ることは珍しいほごです。樹皮は健胃、強壮、強性作用があり糖尿病の民間薬として利用されています。

花は両生花と雄花があり、果実は果柄の先につき、基部には果柄だけが残ります。基部は鳥に食べられた様に見えますが最初から果実はありません。

二千本の樹木や草花があり、市民の方々に「都会の中の憩いの

森林」として親しまれています。(担当：技術普及課)

新任挨拶 よろしくお願ひします

計画課課長



山崎 準
やまさき ひとし

年齢 49歳

出身地 兵庫県 抱負 九州局勤務は初めてですが、国有林における新たな取り組みの多くが九州局から始まったおり、失敗を恐れずに挑戦しようという空気に満ちているのを感じます。九州国有林が日本の森林・林業の再生に大きく貢献できるよう、皆さんと一緒に取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

106 タラノキ (ウコギ科)

タラノキの語源ははっきりしておらず、山菜のウドは、古くは朝鮮語名の「ツチタラ」と呼ばれ、これに似た木として「タラノキ」に転訛したという説があります。

タラノキ(オダラ)に対してメダラもあり、タラノキの小葉の葉裏が白くないので区別は容易にできます。

タラノキは先駆樹種(パイオニア)のため、日当たりの良い林道端や森の中のギャップに生えています。埋土種子からの発芽が多いといわれています。



8月は本当に暑かった、熊本市の8月の平均気温は、29日時点で29・8度、観測史上1位だそうです▼この高温は、この時期によく耳にする太平洋高気圧ではなく、大陸から張り出したチベット高気圧の影響によるもので、勢力が強く台風も寄せ付けなかったため、強い日差しが続いたとのこと▼9月に入り、この気圧配置が変わったことから、台風が九州上陸となったようです▼台風が8月の熱気を払ってくれたのか、ここ数日少し涼しく感じられるようになり、先日行った現場では、スキの穂が風に揺れ、赤とんぼが飛んでいるところを見ました、秋は確実に近づいているようです▼涼しくなると、現場業務など少しは楽になってくるかと思いますが、9月期は「ゼ口災月間」です、気を緩めず、8月期に続き無災害とるよう、安全対策の徹底をお願いします▼また、涼しくなるとはいえ、また蜂の活動は活発です、防蜂網など保護員の着用、自動注射器の携行など、蜂刺され防止対策も引き続きお願いします。(き)